

計画案の夢

アンビルト・プロジェクト

アトリエCOSMOS
'93~'95

10

永平寺町立図書館計画



永平寺町立図書館計画

—道(螺旋)の建築—

じいへっと目を閉じている。
遠くの方で「バッポウソウ」が鳴いている。
じいへっと目を閉じていると、私の気持も遠くの彼方に及んでいく。頭の中のモヤモヤが、スッと消えていく。私の気持は奥深い大気の中に溶け込んでいく。

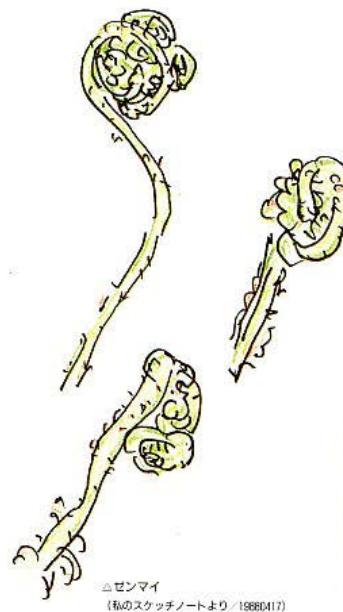
じいへっと目を閉じている。
今度はウグイスが鳴いている。
あっちでも、こっちでも鳴いている。
まるで互いに会話しているみたいだ。
私の気持は奥ふかーい透明な大気の中に益々引き込まれていく。
私の肉体は途方もないじしまの世界にまぎれ込んでいく。

突然、私の耳元でアブが通過していく。
猛スピードで通過していく。驚いて目を見ました。
「そうか、私は田園の土手に寄りかかって
いたんだ。

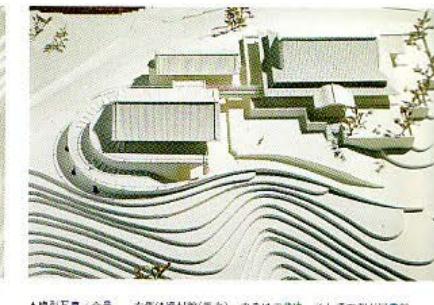
そういうばさっさから背中にもやわらかい土のぬくもりが伝わってくる。
「そうか…、私は瞬間的にどこか見知らぬ果ての果てをさまよっていたんだ」
(私のスケッチノートより)

「生命の営みは、この瞬間の感覚体験を通して「非日常化」され、「垂直化」される。言い換れば、別の空間、別の時間に我々は移入されていく。その際、日常性から非日常性へのこの一瞬の変化の構造は、螺旋形式をとるのが常である。「垂直化」というのは日常の平面の世界に対して、螺旋状に垂直に上昇、もしくは下降するということに他ならない」
—JOURNEY OF THE SOUL ジル・ハース著/高橋敬訳—

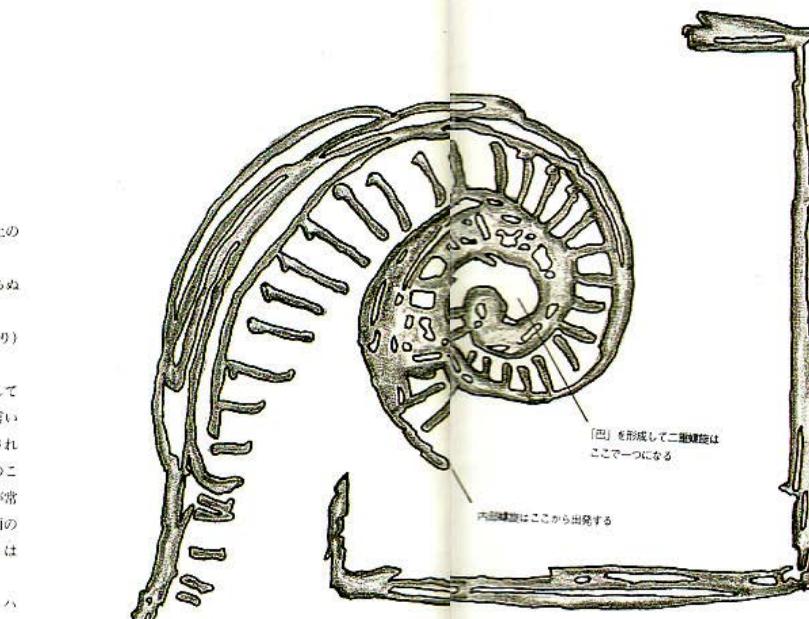
「道(螺旋)の建築」と題したこの計画案は、福井県永平寺町が実施した設計競技に応募した案である。曹洞宗大本山永平寺の付属図書館として、主に禅に関する文献の収蔵及び展示、



▲模型写真：螺旋形部分計画



▲模型写真：全景。右側は貴村館(既存)、中央は収蔵庫、そして左側が図書館



△建物のイメージスケッチ
道のりを現す螺旋とそれを受ける空間との対比を現す。図書館全体は、対極的な二つの要素より構成される。二重の螺旋(内部及び外部螺旋)によるオーガニックな空間と、直線によるジオメトリックな空間の間(はさま)に発生するもの……。



△地階平面図
外部螺旋はスパイラルウォークとして、メインアプローチの導入部分として発生する。内部螺旋は入口ロビー正面より発生し、上階へと上昇していく。

さらに研究、セミナー等の利用を目的として建設を予定したものである。

コンペに参加するきっかけとなったのが、「禅」というテーマのためであった。禅に少しでも近づいためにはまたない機会であり、特に建築空間の創造という具体的な作業を通じて、長い間私の意識と無意識の間(はさま)を去していった禅の世界を多少でも理解する絶好のチャンスと考えたからだ。

コンペは最後の最後で一步及ばなかったが、そこには至るまでの「道のり」が私にとって何よりも貴重なものとなっている。

私の気持の中に無杂质に、しかも互いに無関係に存在していた諸々の体験も、実は大別すると二つの相対という大きなカテゴリーの中に納まる。そして二つの相対に納まつた複数なことがらは、互いに補完しながら、結局は「大極」という途方もない時間空間の中に溶け込んでいく。意識の内面に存在する「陰」と「陽」、または「正」、「負」が互いに補完ながら「無意識」という大極的な世界を創り出していく。そこに至るまでの「道のり」における変化の構造は螺旋形態をとる(前出)……ということか。

「道は宇宙変転の精神、つまり新しい形を生み出さんとして、絶えず己に回帰する永遠の成長」(圓倉天心「茶の本」より)であり、本計画案の骨子を成している。

図書館は外部螺旋と内部螺旋の二つの異なる

った曲率の回転運動を統合ながら互いに上昇し、最上階で「巴(ともえ)」を形成しながら限りなく一つに近づく。人は上昇しながら意識の営みの中で自己の内面に限りなく近づいていく。そして最上階で「巴」を形成した意識は最終的に「アブ」と呼ばれる半円形のドームに至り、大極という途方もない時間空間に呑み込まれていく。こういう願いを念じての設計であった。

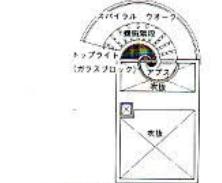
「全宇宙にわたるこの集合的な悟りが収縮する螺旋的経過の渦の中で、眞の統合が達成された場合、我一人一人が宇宙そのものになる。

そして遂に多様な光が一つになって、宇宙認識の光……、つまり「宇宙の心的自己回帰」という最終地点が実現されるに至る」

—ティヤール・ド・シャルダン—

植物のツルのように、決して停止することのない螺旋運動を用いて天に近づく……。

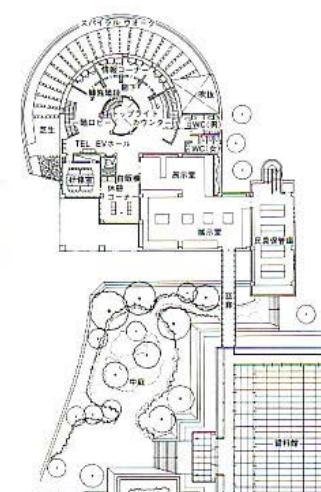
いろいろ考えさせられる設計の道のりであった。



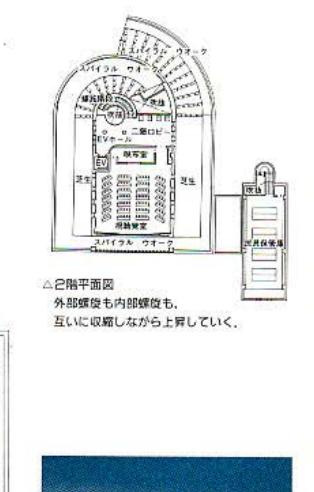
△3階平面図
この二つの螺旋によって構成された螺旋は、最上階で「巴」を形成しながら一つになる。



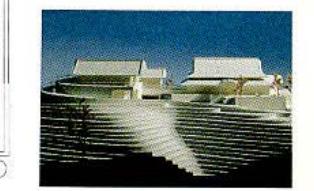
△1階平面図
メインアプローチより連絡している外部螺旋は、外周部をゆっくりと上昇していく。内部螺旋は収縮しながら更に上昇を続ける。



△2階平面図
メインアプローチより連絡している外部螺旋は、外周部をゆっくりと上昇していく。内部螺旋は収縮しながら更に上昇を続ける。



△3階平面図
メインアプローチより連絡している外部螺旋は、外周部をゆっくりと上昇していく。内部螺旋は収縮しながら更に上昇を続ける。



▲模型写真：全景